



田代正美会長兼CEOと会見した今井月(右)=バローホールディングス人材開発センター「嫩葉舎(どんようしゃ)」

今井「地元」に恩返し

パリ五輪出場へバローHDが支援

競泳 来月から所属契約

競泳女子で2016年リオデジャネイロ五輪代表の今井月(22)＝東洋大、岐阜西中出Ⅱが6日、可児市内でバローホールディングス(HD)との所属契約締結の記者会見に臨んだ。24年パリ五輪出場を目指す「地元」に恩返しができることほし、結果を出す

結果を出すことが全て 一問一答

今井月の一問一答は次の通り。
―地元に対する思いは。
「岐阜県に対しては感謝の気持ちが強い。自分の競技に責任を持ちながら、上を目指して頑張っていきたい」
―4月からは社会人。精神的な変化はあるか。
「今までは学生としてやってきたが、これからは水泳が仕事になる。責任を感じている部分もあり、何にも守られていない状態で『結果を出すことが全て』というのは自覚している」

【略歴】今井月(いまい・るな) 岐阜西中1年で出場した日本選手権の200m平泳ぎで3位入賞。全国中学校体育大会は100mと200mの平泳ぎ2冠を3年連続で達成した。愛知・豊川高に進学し、16年のリオデジャネイロ五輪代表入り。21年の東京五輪出場は逃したが、昨年の日本学生選手権で平泳ぎ200mの自己ベストを更新した。22歳。岐阜市出身。

―責任を感じながら自分の水泳を全うしたい
―大学の4年間を振り返って。
「入学後は成績が残せず、思い描いていた水泳人生とかけ離れていた時期が長かった。去年は練習の拠点を変えたり、やり方を変えたりするなど自分で工夫し、日本選手権優勝や自己ベストを更新できた。大学4年間はつらいことが多かったが、今では本当にいい時間だったと思う。自分のことも知ることができた4年間だった」
―昨年からの好調の要因は。
「環境を変えたことが大きい。自分の気持ちや競技に対する取り組みがらっと変わった。去年からは1人暮らしも始め、自分のことは自分でやるようになった。水泳に対して今までも本気でやってきたが、(競技を)続けるか続けないかという選択もあったので、責任を持ちながらやってきたのが大きいと思う」
―好調を維持するために大切にしたいことは。
「好調を維持するには練習が大事。社会人になって水泳を続けられるのは、みんながみんなできることではない。続けられることに感謝し、しっかり水泳に夢中になりながら、常に目標を持って取り組んでいきたい」
―水泳を始めるきっかけとなったアクトスの思い出は。
「3歳から5歳くらいまでアクトスで水泳をしていた。二つ上の兄が水泳をしていて、どうしても水泳を早く始めたくて(入会可能な)3歳の誕生日の日に入会した」

すること」と意欲を語った。今月に大学を卒業するが、4月以降も現在と同じ東京ドームを拠点に活動を続ける。

17年を最後に五輪と世界選手権の代表から遠ざかっていたが、昨年は8月の日本学生選手権で平泳ぎの100mと200mで2冠を達成。200mは7年ぶりに自己ベストを更新し、9月の国体でも成年女子100m平泳ぎを制した。

た。「やっと復活できた。今年は昨年以上に飛躍の年にしたい」と意気込んだ。

4月には日本選手権、7月には22年ぶりの国内開催となる世界選手権と、五輪に向けた主要大会が続く。「日本での世界選手権には絶対に出たい。まずは日本選手権で代表権を獲得する」と活躍を誓った。

会見に同席した田代正美会長兼CEOは「今井さんをオールド岐阜で応援する動きがある中、白羽の矢が立った」と契約に至った経緯を説明。バローHDがアスリートと所属契約を結ぶのは初めて。今井が3歳で水泳を始めたのが、バローグループで会員制スポーツクラブを展開するアクト

スの店舗だった縁も明かし、「五輪で金メダルを取ってほしい」とエールを送った。(浜田悠)